

中国語教育実践報告

汉语教学实践报告

濱 口 英 樹

此文主要讨论初级汉语教学方法。

第一章第一节、第二节提示了「声调」「单母音」「子音」等的指导方法。第三节介绍了用「最小对立」的概念识别音节、声调的方法。第四节提出了具体课文的指导方法。本文讨论了以能够沟通为目标的语法说明、发音练习、会话练习的教学方法。

第二章介绍了直接了解汉语的阅读教学法。

0. はじめに

関西大学外国語教育研究機構が提供する外国語教育の最大の眼目は、外国語教育のあり方を見直し、真にコミュニケーション手段として外国語を教育するというアプローチにあるとのことである。こうした考え方に基いた、あるいは近づけるような中国語の教育方法を模索しているが、本稿では筆者が毎年担当している中国語Ⅱ、中国語Ⅳの授業での活動を報告する。

1. 中国語Ⅱ

1.1 中国語Ⅱについて

中国語Ⅱというのは、関西大学では基本的に1年次生が履修するものである。1年次生は中国語Ⅰと合わせて、週2回中国語の授業を受ける。中国語Ⅱのテキストは、商学部では「楽楽中国語」(白帝社)を、法学部では「語学三十六景」(東方書店)を用いている。

1.2 発音指導

1.2.1 声調

中国語Ⅱでは、最初3～4週は、声調、母音、子音などの練習を行っている。

声調の指導では、まず、1声から4声までを説明、発音練習をした後、「語学三十六景」のドリル部分にある以下ような練習を、口頭で行う。

・発音されたものを _____ に書きなさい。

1) mā má mǎ mà _____

この練習は、1声～4声までの声調を発音した後、5番目に発音したのは何声であるかを問うものである。この段階では2声と3声の区別は非常に困難であると思う。例えば、出題を3問にして、答えが、1声、2声、4声になるようにし、とりあえず、1声と4声から確実に音をつかませるなどの工夫をした方がよいかも知れない。また、声調の説明図で3声の後半部が点線で描かれ、2声の終わりと同じ高さになるというものがあるが、2声と3声の区別をわかりやすくするためには、その図を無視し、3声は低く抑えるということを徹底させる必要がある。この他、2声を短く、3声を長めに発音するのも有効である。

1.2.2 単母音「e」と「ü」の指導

母音や子音の指導をする際、気をつけているのは、最初の段階からあまり完璧な発音を求めないということである。「語学三十六景」には、「en と eng、ian と iang はきちんと発音し分けよう」と書かれたりしているので、筆者の考え方とあまり変わらないと思われるが、「(u) an」と「(u) ang」、「in」と「ing」は同じ発音でよい、「e」の発音は単母音の「e」の音と日本語の「エ」の音の2つでよいなどと指導し、コミュニケーションに差し支えないレベルの発音を到達目標とする。

この考えから、単母音は、「e」と「ü」だけ詳しく指導する。

「e」の発音は、初級のテキストでは様々な説明がなされているが、最もわかりやすいのは「[エ]の口で「ウ」を発音する」だと思う。「[エ]の口」がわからなければ、「歯と歯の間に小指の先が入る程度口を開けた形」と説明して、実際にその形を作って「ウ」を発音してもらう。

「ü」についても、テキストの説明は様々である。「ü」の発音については、以下のような説明を行う。

- ・上唇と下唇で頂点が上になる、一辺が5 mm 程度の正三角形を作る（黒板に図示）。
- ・上唇の真ん中から左右1 cm 程度の所に力を入れる。
- ・歯を見せない。
- ・そのままの口の形で「ユ」の音を出す。

「ü」の発音は1回、2回の指導ではなかなかうまくいかない。子音「j」「q」「x」と組み合わせた方が発音しやすい場合、後で述べるミニマルペアの練習で「qu」と「chi」の識別練習をさせた後の方がわかりやすい場合がある。また、この段階で「qu」と「chi」の識別をしっかりしておかないと、いつまで経っても「去 qù」と「吃 chī」の区別がつかないことがある。

1.2.3 鼻母音の指導

「n」と「ng」の対立のあるペアのうち、「(u) an」と「(u) ang」、「in」と「ing」については、同じ発音でよいと指導している。これは、望月八十吉・高維先(1970)では、音節末尾の「n」は「b,p,m」の前では「m」(例:「什么 shénme」)に、「g,k」の前では「ŋ」(例:「散开

sānkāi) になると述べられていること、また、コミュニケーションには差し支えないとの理由からである。

残りの「ian」と「iang」、「(u) en」と「(u) eng」については、主母音の音により区別するよう指導している。「ian」の「a」は「エ」で、「iang」の「a」は「ア」で発音する。「(u) en」の「e」は「エ」で、「(u) eng」の「e」は単母音の「e」の音で発音する。

その他、鼻母音で注意するのは「iong」である。「iong」の音は実際は「üeng」であり、発音に際して口はほとんど動かさないと指導する。

1.2.4 子音の指導

子音で重点的に指導するのは「無気音と有気音」「そり舌音」である。

まず、「無気音と有気音」については、日本語の濁音と無気音の違いにも触れながら以下のように説明する。

- 日本語の濁音（有気音）は声帯を使う音であり、中国語の「無気音」は声帯を使わない無声音である。
- 「無気音」は子音を発音したら直ぐに母音を発音する。「有気音」は子音の後、少し息を出し、それから母音を発音する。
- 「無気音」が発音しにくければ、「ベット」のように日本語の促音を発音し、促音のあと「ト」の前で口の動きを止め、それから無気音「bo」を発音する。
- 発音というのは、テニスのスイングが練習するにしたがって上手になっていくように、何回も発音しているうちに上手になっていくものであるから、最初は濁音気味に発音すればよい。

「そり舌音」については、まず、「zhi」「chi」について以下のように指導する。

- 舌先を上歯と下歯の間に入れ、それから上歯茎のところまで舌先を移動させる。
- その口の形で「ジ」を発音する。
- 2～3度「zhi」を発音
- 「i」の部分でも口を横に引かず、最初から最後まで同じ口の形で発音する。
- 2～3度「zhi」を発音。
- 「zh」を発音したら、舌先を歯茎から離す。
- 2～3度「zhi」を発音

同じ口の動きで「チ」を出せば「chi」になると指導し、次に「shi」「ri」について以下のように説明する。

- 「zhi」と同じ口の形であるが、最初から舌先と歯茎の間にすき間を作っておく。
- 「シ」を発音すれば「shi」、のどを使って濁音にすれば「ri」。

すべての子音の紹介が終わったら、2度ずつ発音し、その後21の子音の中から4問程度発

音し、ピンインで書きとる練習をさせる。単母音、鼻母音などすべての音声の指導を通じて、「発音練習」「その後直ぐに書きとり練習」「また発音」というのが基本的な進め方である。

1.3 ミニマルペア

発音の学習が終わった5週目頃から、ミニマルペアを使った小テストを行う。ミニマルペアの詳しい作成例や練習方法については、浜口(1996)を参照していただきたい。ここでは、要点だけ述べる。

ミニマルペア(最小対立)というのは、1つの音素だけが異なり意味も異なる2つの語のことである。例えば「dān(担)」と「tān(貪)」は語頭の音素だけが異なり、意味も異なる1組のミニマルペアである。中国語では、2音節語の聞き取りや発音が重要なので、2音節語のペアで練習を行う。また、(1)のような声調の問題や、(3)のように厳密にはミニマルペアと呼べないものも、教学上有効であるため取り入れている。

- (1) a. māmà b. māmà
- (2) a. cōngmíng b. chōngmíng
- (3) a. chífàn b. qūfàn

ミニマルペアの練習方法は以下のようなものである。

- ・「a. cōngmíng、cōngmíng」、「b. chōngmíng、chōngmíng」というように「a」「b」をそれぞれ2回ずつ発音する。
- ・「c」として「a」「b」どちらかと同じものを1度発音し、学生には「c」が「a」「b」のどちらと同じ音であるかを答えさせる。

ミニマルペアの小テストでは、ほとんどの学生が満点を取ることができると思う。満点を取らせるということもやる気をおこさせるという意味で語学教育では重要である。この考え方については、斎藤(2003)も参照していただきたい。

1.4 各課の指導

声調、母音、子音の指導を終えた後の各課は、単語、文法のポイント、本文、ドリルという順番で進めている。

1.4.1 文法の指導

文法のポイントではできるだけ説明の時間を短くすることを心がけている。基準としては、例文の意味と品詞、語順がわかればよいと考えている。

「語学三十六景」9課のポイントは「数字と年月日」、「量詞」、「比較の“比”」などである。例えば「量詞」は、以下のように説明する。

- ・「量詞」というのは、日本語の「一冊、二冊」の「冊」のように物を数える時に使う語で

ある。

- 「数詞」＋「量詞」＋「名詞」という語順になる。
- “把” はつかむところが目立つ物（例：「傘」、「包丁」）に、“张” は面が目立つ物（例：「机」、「切符」）に使われる。

1.4.2 中間中答

「語学三十六景」9課の本文は以下のような会話文である。

陈： 你今年多大岁数？

佐藤：二十岁。

陈： 我比你小一岁。

佐藤：那你今年十九岁？

陈： 对。你的生日几月几号？

佐藤：二月七号。

陈： 你家有几口人？

佐藤：五口。

陈： 都有什么人？

佐藤：爸爸、妈妈、一个哥哥、一个妹妹和我。

まず、本文に一度目を通してもらい、次に、以下のような質問をして内容を確認していく。

- (1) “佐藤今年多大岁数？”
- (2) “陈小姐今年多大岁数？”
- (3) “佐藤的生日几月几号？”

1.4.3 本文の説明

文法の説明や中間中答を行っているので、本文の訳はしない。新出単語の意味はテキストに書かれているため、単語の意味を確認する程度である。“你今年多大岁数？”であれば、「你」「今年」、ここまではいいですね。“多大”「どのくらいの大ささ」、「岁数」「年齢」ですね」という程度で進めていく。

1.4.4 音読練習

音読練習は以下のような方法を用いて行っている。

- モデルの後について音読
- 一つの文（長ければ適当に区切る）を発音し、少し間をおいて、頭の中で音のイメージを作らせてから一斉に発音する。
- Read and Look up

• Shadowing

「Read and Look up」は、教科書を見ながら黙読した後、教科書から目を離してその文を発音するという練習。「Shadowing」はモデルの発音とほとんど同時に、モデルの真似をしながら発音するという練習である。この2つの練習方法についても、詳しくは、斎藤（2003）を参照していただきたい。

音読練習を何回するかというのは決めていないが、目標は、「テキストを見なくても「Shadowing」ができる」までである。

1.4.5 インフォメーションギャップ（情報の差）を利用した会話練習

インフォメーションギャップというのは、Johnson, K. and K. Morrow (eds.) (1981) に従えば以下のようにまとめることができるだろう。

• インフォメーションギャップ（情報の差）

通常のコミュニケーションは、一方の側が、他方が知らない事柄を知っているという情報の差がある状況で行われる。コミュニカティブな会話練習にはこのようなギャップが必要である。例えば、学生同士が教科書の同じ部屋の絵を見ながら、テーブルや椅子がいくつあるかということを問うような練習はコミュニカティブとは言えない。「語学三十六景」9課の本文の学習では、教師が“你家有几口人？”“你的生日几月几号？”などと質問し、学生がそれに答えるという練習を行えば、インフォメーションギャップを利用した、コミュニカティブな会話練習になる。

1.4.6 ドリル

「語学三十六景」のドリル部分にはヒアリングを中心とした様々な問題があるが、これに加えて、あるいは、これらの代わりに以下のような練習を行っている。

- 教師が単語を発音しピンインを書かせる。
- 日本語（語句）を中国語に訳させ、ピンインで書かせる。
- 日本語（文）を中国語に訳させる。
- ディクテーション
- 1つの文を音読しながら、漢字とピンインで5回ずつ書かせる。
- 上の練習で5回ずつ書いた文を暗唱させる。

5回ずつ書かせる練習を行うときは、教師も音読しながら黒板に何回か書いてみると学生も練習しやすいと思う。

2. 中国語Ⅳ

2.1 中国語Ⅳのテキスト及び目標

関西大学の中国語Ⅳは、1年次に中国語Ⅰ、Ⅱの履修を終えた2年次生が履修する科目である。テキスト（商学部共通）は「話す中国語北京編3」（朝日出版社）を使っている。

2.2 読解文の指導方法

「話す中国語北京編3」の1～4課、6～9課などは、会話文の読解であり、基本的に中国語Ⅱの各課と同じような方法で授業を行っている。ここでは、5課、10課など5課毎にある読解文の課の指導方法について述べる。

読解文の課では、前もって日本語訳を渡して、中国語の理解についての授業となるよう心がけている。これは、コミュニケーションの手段として中国語が読めるという場合、訳す必要はないし、日本語に訳さなければ理解できないということでは、中国語でメールをやりとりする、中国語で書かれた論文を読む、中国語コミュニケーション能力検定を受けるなどという場合、「読むスピードが遅い」という問題が生じると考えられるためである。

「話す中国語北京編3」第5課の本文の一部は以下のようなものである。

潘家园旧货市场

潘家园旧货市场在北京城外东南。这里每到周末都有集市，主要出售骨董、书画和旧书等。由于这里卖各种各样别处买不到的东西，因此吸引了许多顾客。不但有本地人，而且有从外地来的人，甚至还有不少外国人。

まず日本語訳を見ながら、中国語に目を通してもらう。“由于～因此”、“不但～而且（～甚至）”などはポイントの部分で説明しているので、引き続き、以下のような活動を行う。

- ・動詞（述語）を探す。

動詞は1行目に“在”“有”“出售”が出てくる。ここで“潘家园旧货市场”“在”“北京城外东南”と切りながら発音し、中国語の形を理解させる。

- ・長い修飾語がどこから始まっているか見つける。

2行目の“东西”、3行目の“人”の修飾語はどこから始まっているか見つけさせる。また、“从外地来的人”などの関係節は、それ全体は名詞句であり、「…動詞 X … + 名詞 B (XするB)」という形になっていると説明する。

・学生に配る日本語訳には「ここでは毎週週末に市が開かれ、骨董や書画、古本などを（ ）ている」と空白を作っておき、スキーマを利用して“出售”の意味を推測させる。

・最後にまとまりのある語句で区切って、中国語の形を説明する。ここでは、スピードのあるリーディング力、あるいは、ヒアリング力の向上に結びつくように、できるだけ前から順番に理解させるように心がける。

3. おわりに

最近では、語学教育についてもホームページで様々な情報を得ることができる。中でも筆者が参考にしているのは以下の2つのホームページである。

<http://ha2.seikyoku.ne.jp/home/yanase/> 広島大学、柳瀬陽介先生のホームページ

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~shizuka/> 関西大学、静哲人先生のホームページ

これらのホームページを見ると筆者の授業などは足下にも及ばないと感じるが、商学部や法学部で中国語を教えた学生から、「1年間中国へ留学に行ってきます」「職場で中国語を使っています」などと聞くこともある。こうしたことを励みによりよい授業を目指して様々なことを試していきたいと思う。

参考文献

- 浜口英樹 (1996). 「中国語のリスニング指導について — 『中国語へのパスポート』を使用した授業の進め方—」. 『関西大学視聴覚教育』第19号. 49-53
- Johnson, K. and K. Morrow (eds.) (1981) (小笠原八重訳1984.) 『コミュニケーションアプローチと英語教育』. 東京: 桐原書店.
- 鹿野晴夫 (2003). 『TOEIC®テスト900点を突破する集中トレーニング』. 東京: 中経出版.
- 斎藤栄二 (2003). 『基礎学力をつける英語の授業』. 東京: 三省堂.
- 示村陽一 (2003). 『FIFO式英語「速読速解」法』. 東京: 講談社 (講談社現代新書).
- 望月八十吉・高維先 (1970) 『中国語学習のポイント』. 東京: 光生館.